

卓話

平成 19 年 12 月 11 日

『ロダンと花子』

財団法人岐阜市にぎわいまち公社
総務課長 清水玲子様

花子とロダンのかかわり

花子は、近代彫刻の巨匠、オーギュスト・ロダンのモデルになった、ただ一人の日本人女性です。踊り子の一人としてヨーロッパに渡り、後に一座を率いてヨーロッパ各地を巡業し、自らも女優として演技をしました。その演技がロダンの目にとまりモデルになりました。



ヨーロッパでの公演

花子は 1902 年にヨーロッパに渡り、20 年間で欧米 18 ヶ国を巡業した波乱の人生でした。花子の演じた芝居は、日本の伝統的な歌舞伎で演じられる物語をもとにしていました。花子の演技はどの国でも大評判で、「花子」という名の酒やたばこまで売り出されました。

西 暦	ことごと
一八四〇	ロダン生まれる
一八六八	花子、愛知県上祖父江村に生まれる
一八八〇	ロダン「考える人」発表
一九〇二	花子、横浜から渡欧
一九〇五	花子一座を旗揚げしヨーロッパ各国を巡業し「ハラキリ」で好評を博す
一九〇六	ロダン、マルセイユでの仏国植民地博覧会で花子一座の「芸者の仇討」を観劇し心を動かされ、花子にモデルを依頼
一九〇七	花子、アメリカ巡業
一九〇八	花子、数年がかりでヨーロッパ十七ヶ国を巡業。 オーストリアではワインにドイツでは煙草の名前に花子が使われた
一九一〇	ロダン、「死の首」を公開 森鷗外、短編小説「花子」を発表
一九一一	ロダン、「空想に耽る女」を制作 花子、ロダンにマスクを貰い受ける 書簡を出す
一九一二	ロダン、「花子の顔」を発表
一九一四	第一次世界大戦勃発 花子・ロダン夫妻ロンドンへ避難
一九一七	ロダン死亡 77歳 作品は国家に寄贈
一九一八	花子ロンドンに日本料理店「湖月」を開業
一九二一	花子、「空想に耽る女」「死の顔」を入手し帰国。 妹の経営する岐阜市西園町の芸妓置屋「新駒」へ入る
一九二七	高村光太郎、新駒へ花子を訪ねる
一九四一	「死の顔」「空想に耽る女」を赤塚秀雄氏の手に乗ねられる 太平洋戦争勃発
一九四五	花子丹毒にて死亡 77歳 第二次世界大戦終結